

基本のホーン!

家庭菜園
藤田智直伝!

その⑧ダイコン

ダイコンは、日本の食文化とも結びつきが深い、代表的な野菜です。根も葉も栄養たっぷりなダイコンを立派に育てる秘訣は、しっかり土をつくること。太りのよいダイコンを収穫するため、深くよく耕しましょう。

恵泉女学園大学 園芸文化研究所助教授
藤田 智



ダイコンの特徴

ダイコンは、日本人に最もなじみの深い野菜です。練馬、三浦、桜島、聖護院、守口など土地の名前がついた品種は、古くから漬物など各地の食文化と結びついて生産されてきました。小さな二十日ダイコンから大型の、桜島大根、長さ120cmに達する、守口大根、まで、その品種の多様さに加え、生産量、消費量ともに日本が世界のトップにあります。これらのことから、ダイコンはまさに世界に誇る、わが国の代表的な植物だといえるでしょう。

ダイコンの根は豊富なビタミンCのほか、栄養素として鉄分や食物繊維も含まれます。ダイコンおろしとして生食することが多いのは、熱に弱い消化酵素のジアスターゼ(アミラーゼ)を含むためで、胃腸にやさしい野菜だといえます。栄養上、注目すべきはダイコンの葉で、ビタミンA・B・C・D・Eをそれぞれ多量に含み、たんばく質も多いことから、最近では葉を収穫対象とする品種も登場しています。生育適温は17〜20℃と涼やかな気候を好みますが、10℃以下の低温では花芽分化を起し、根の肥大が妨げられるので、タネまきの時期が大切となります。また、同時に季節に合った品種を選ぶこともポイントです。

主な品種

秋まきの青首ダイコン、丸ダイコン、中太り型ダイコンのほか、春まき、夏まきにもおすすめの品種があります。さらには、珍しい中国ダイコンや、葉を食べる品種などさまざまです。

おすすめダイコンあれこれ

秋まき品種

青首ダイコン



ス入りが遅い青首の定番種‘耐病総太り’。そのほか‘YRくらま’‘YRてんぐ’‘千都’などが作りやすい(いずれも生育日数55〜65日)。

丸ダイコン



生育日数75〜90日で収穫できる‘冬どり聖護院’。または生育日数60〜70日の‘早太り聖護院’など。低温期でも太りがよく煮食に向く。

中太り型



まさにおふくろの味! 煮物にぴったりの‘おふくろ’(生育日数80日)。

春まき品種



写真の‘おしん’のほか‘おはる’‘大師’などは、トウ立ちやス入りが遅いのでトンネル栽培に最適。

夏まき品種



病気と暑さに強い‘夏みの早生三号’。

その他の品種

中国野菜



‘青長大根’は首が緑に着色する。



芯の色が鮮やかな‘紅心大根’。

葉ダイコン



味わい抜群の葉とり専用種‘葉太郎’。ほかには周年栽培向けの‘ハットリくん’など。

地方野菜



肉質が緻密で漬物に最適な‘練馬大根’。



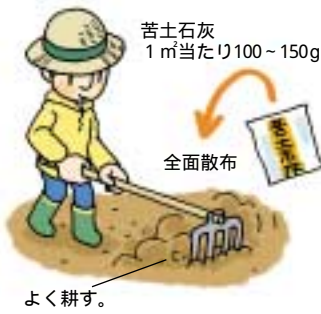
重さ10〜20kgにもなる大型の‘桜島大根’。



長い根が120cmにも伸びる‘守口大根’。

第1図 土づくり

タネまき2週間前



よく耕す。

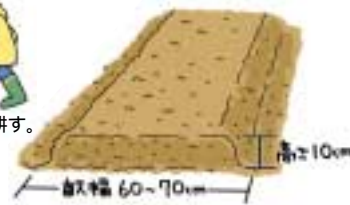
タネまき1週間前



よく耕す。

畝作り

高さ10cm、畝幅60~70cmの平畝を作る。



栽培方法

1 タネまきの適期と方法

ダイコンは代表的な直根類ですので、直まきのみになります。移植すると、また根になつてしまいます。移植すると、との関係から、タネまき時期はとても大切であり、秋まきでは8月末〜9月上旬が適期です。

第2図 タネまき

タネまき

点まきにし、その後たっぷり水をやる。

1穴4~5粒まき



タネまき後の作業

水をやって覆土した後、表面にもみ殻などをかける。

乾燥や雨のたたきつけ防止に効果がある。



第3図 間引き(1回目)

発芽 - 本葉1~2枚で3本立ちに。

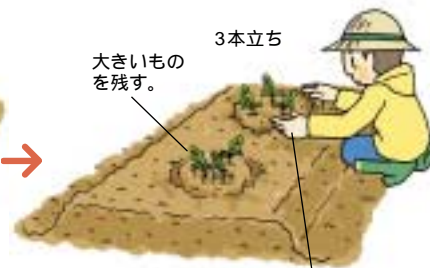


間引く株
小さいもの。
双葉が変形したもの。
虫害を受けているもの。

3本立ち

大きいものを残す。

手で根元に軽く土寄せする。



3 間引き・追肥・土寄せ
本葉が1~2枚のころまでに、生育のよいものを残して3本に間引きます。間引いた後は株元に軽く土を寄せ、グラグラしないようにします。その後は、本葉3~4枚の時2本に、本葉6~7枚の時1本立ちにします。間引いたものは、間引き菜として利用することができます。2回目の間引きからは、間引き後に1㎡当たり30gの化成肥料を施し、土寄せを行います(第3図・第4図・第5図)。

第4図 間引き(2回目)・追肥(1回目)

間引き(2回目)

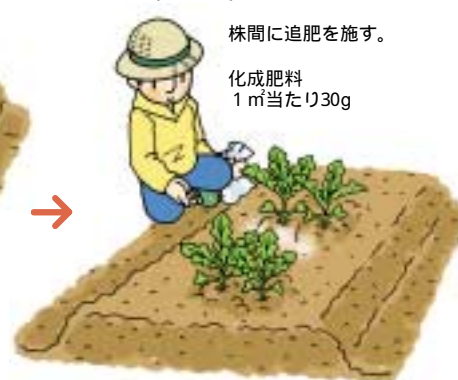
本葉3~4枚のころ2本立ちに。



追肥(1回目)

株間に追肥を施す。

化成肥料 1㎡当たり30g



土寄せ

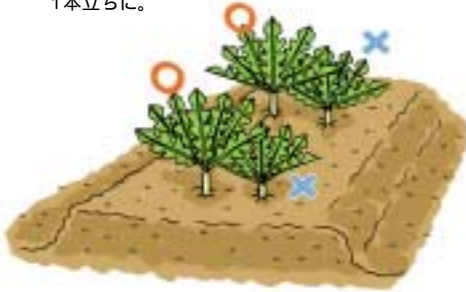
土寄せする。



第5図 間引き(3回目)・追肥(2回目)

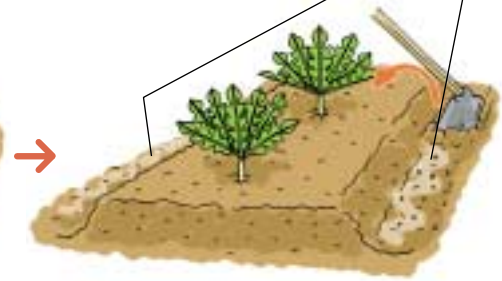
間引き(3回目)

本葉6~7枚のころ
1本立ちに。



追肥(2回目)

畝の両側に追肥を施す。



土寄せ

たっぷりと
土寄せする。



適期収穫を心掛ける。

青首ダイコンは、太さが6~7cmくらいになってきたら収穫することができます(第6図)。その目安は、品種にもよりますが、早い品種で55~65日、遅い品種で80~100日くらいです。収穫が遅れると、ス入りや裂根が発生しやすくなるので、適期の収穫を心掛けましょう。

5 収穫

秋まきでは、害虫が多発するので注意します。アオムシ、コナガ、ヨトウムシにはBT剤を、アブラムシ、キシジノミハムシにはDDVP乳剤1000倍液を散布し、防除します。農薬を使用したくない場合は、寒い場合、寒冷紗によるトンネル被覆を行い、害虫の侵入を物理的に抑えるようにします。



生育中のダイコン。秋まきでは害虫が多発するので注意する。

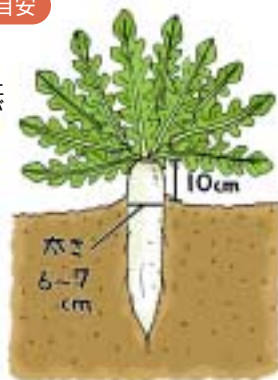
4 病害虫

秋まきでは、害虫が多発するので注意します。アオムシ、コナガ、ヨトウムシにはBT剤を、アブラムシ、キシジノミハムシにはDDVP乳剤1000倍液を散布し、防除します。農薬を使用したくない場合は、寒い場合、寒冷紗によるトンネル被覆を行い、害虫の侵入を物理的に抑えるようにします。

第6図 収穫の目安

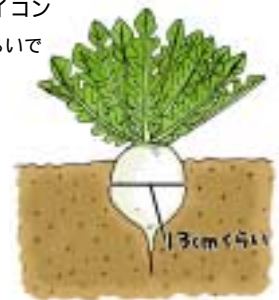
青首ダイコン

地上部が10cm以上出ている、太さが6~7cm。



聖護院ダイコン

太さ13cmくらいで収穫。



トウ立ちしたダイコン。スが入ってしまい、食味が落ちてしまう。

ダイコンが二またになるわけ

丹精込めて栽培したダイコンを抜いてみると、見事なものができている一方で、二またや三つまたに分かれたものも見られて、がっかりすることがあります。この原因には、タネの真下に堆肥の塊や石などの障害物があり、根が伸びていく最中に二またに分かれてしまった、間引きなどの作業中に、株を倒したり抜いたりしてしまって、根を傷つけた、苗を移植した、などが挙げられます。

また根の原因を見ると、ダイコン栽培における土づくりの重要性や、丹精込めて作る意味がよく分かってくることでしょう。



また根になった'三浦大根'。



藤田 智
(ふじた さとし)

プロフィール

恵泉女学園大学園芸文化研究所助教授。専門は野菜園芸学、植物育種学、農業教育学。「NHK趣味の園芸」講師、雑誌「やさしい畑」連載のほか、ラジオなどでも野菜作りの魅力を伝えている。主な著書に「別冊NHK趣味の園芸・わが家の片隅でおいしい野菜を作る」(NHK出版)など多数。